

知覚動考

「誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり」

寒河江市立南部小学校
校長室だより
校長 白田 敏幸

折れない心育てる

折れない心を育てるためには、自尊感情を育てること、中でも基本的自尊感情に焦点を当てるのが有効と考えられます。昔のような「根性論」は、ほとんど通用しないと感じています。基本的自尊感情を育てるためには、アドラー心理学の考え方が参考になると思われます。

アドラー心理学とは、アルフレッド・アドラーによって創始された心理学の一大理論体系です。アドラー心理学は、**勇気づけの心理学**とも呼ばれており、技法としての「**勇気づけ**」を重視しています。「**勇気づけ**」とは、「相手の存在を認め短所や欠点よりも長所やリソースに着目し、他者との比較ではなく、その児童生徒なりのささいな努力や成長に目を向ける態度や行動のこと」と定義しています。

私たち大人は、児童生徒を正しく成長させたいとの思いから、どうしてもできていないところや間違っているところに焦点を当て、指導したくなるものです。そんなときに、ついやってしまうことが、「**ダメ出し**」です。「ダメ出し」を受け続ける児童生徒の自尊感情が傷つくことは、容易に想像がつくことできる。アドラー心理学の考え方は、「ダメ出し」をしないこと、その逆の対応（**ヨイ出し**）をすることです。

以前、担任だった時にこんなことがありました。清掃後、授業を始めようとしたときに、黒板の掃除が不十分だったので、「今日の黒板掃除は誰だ？全然きれいになってないよ！やり直し！」のようなことを言ってしまいました。こんなときは、だいたい雰囲気が悪くなるものです。別の日に黒板がとてもきれいに掃除できているときがありました。ついでに「うわー、みんな見て！黒板がすごくきれいで、気持ちいいよね！」等と声をかけました。すると、次の日から黒板はずっときれいでした。できていないところに焦点を当て指導し、雰囲気を悪くしなくても、できているところやがんばったところを**勇気づける**ことで、子供たちの行動を変えることはできるのです。

